

NSG グループ

2025年3月期 第1四半期決算報告

(2024年4月1日～ 2024年6月30日)

日本板硝子株式会社
2024年8月8日

大河内 聡人
執行役常務CFO

目次



1. 2025年3月期 第1四半期決算概要
2. 2025年3月期 業績予想について
3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況
4. まとめ

CFOの大河内です。

本日はご多忙の中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。
また常日頃から弊社事業にご理解とご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。

本日の説明内容ですが、3ページにお示した内容になります。
2025年3月期第1四半期決算概要および
2025年3月期の業績予想についてご説明し、
その後、2024年4月から開始した中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」に
おける財務目標の進捗についてご説明いたします。

1. 2025年3月期 第1四半期決算概要

連結損益計算書



円安影響もあり増収だが、
欧州における経済減速の影響を大きく受けた建築用ガラス事業を中心に減益

(億円)	4-6月期		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	2,080	2,164	85
営業利益	146	48	△ 98
営業利益率	7.0%	2.2%	△ 4.8pt
個別開示項目 (純額)	△ 8	2	9
個別開示項目後営業利益	138	49	△ 89
金融費用 (純額)	△ 64	△ 60	4
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	37	-	△ 37
持分法による投資利益	10	11	1
持分法投資に関するその他の利益	11	-	△ 11
税引前利益	133	0	△ 132
当期利益	75	27	△ 49
純利益*	70	24	△ 46
EBITDA	253	175	△ 79

自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業は増収だが、建築用ガラス事業を中心に全事業で営業利益は減益

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△ 55	△ 86
自動車用	+ 127	△ 7
高機能	+ 24	△ 1
その他	△ 11	△ 4
グループ全体	+ 85	△ 98

前年はロシアJVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

法人所得税は26億円の費用のマイナス

2024年8月 8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が2024年3月期第1四半期の業績、
その右側が2025年3月期第1四半期の業績です。

当第1四半期の売上高は、前年同期比85億円の増収で2,164億円でした。
欧州における経済減速の影響を大きく受けた建築用ガラス事業で減収でしたが、
円安影響もあり、自動車用ガラス事業と高機能ガラス事業において増収となりました。

営業利益は、当第1四半期は前年同期比98億円減益で48億円でした。
建築用ガラス事業の減収に加え、主に人件費等その他コストが増加したため
減益となりました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は純額で2億円の収益でした。

金融費用は、純額で60億円となり、前年の64億円から4億円改善しました。

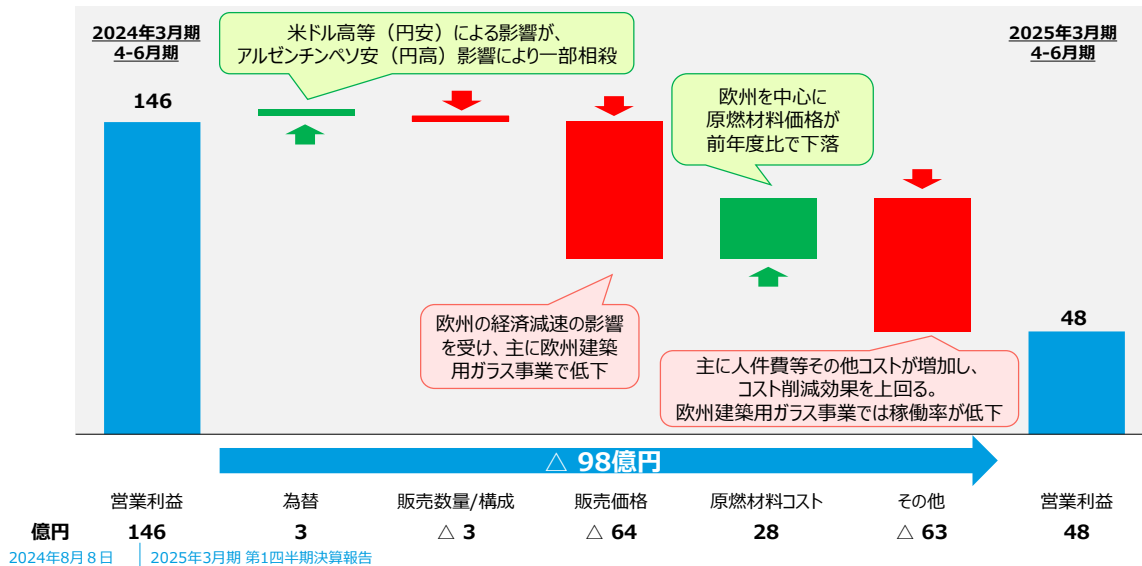
持分法適用会社については、持分法による投資利益は11億円に改善しました。
なお、前年度第1四半期には、ロシアにおけるジョイント・ベンチャーを売却したことに伴い、
一過性の利益として過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の
戻入益37億円を計上し、また投資の一部に対する過去の減損損失の戻入益
11億円を、持分法投資に関するその他の利益として計上しました。

法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算しており、
26億円の費用のマイナスでした。
これにより、当期利益は27億円で、純利益は24億円となりました。

欧州における経済減速の影響を大きく受け、逆風の中でのスタートとなりました。

営業利益差異分析 (4-6月期)

経済減速の影響を受け販売価格と稼働率が欧州建築用ガラス事業で低下。
人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



6ページは、第1四半期の営業利益について
前年度第1四半期の営業利益146億円と当第1四半期の営業利益48億円との差異、
98億円の差異分析です。

「為替」は、3億円のプラスでした。
米ドルをはじめとする外貨高（すなわち円安）による影響が、
アルゼンチン・ペソ安（すなわち円高）の影響により一部相殺されました。

「販売数量/構成」は自動車用ガラス事業で改善したものの、
欧州の建築用ガラス事業で減少し、3億円のマイナスとなりました。

「販売価格」は、64億円のマイナスでした。
自動車用ガラス事業での価格転嫁の進捗に伴い改善しましたが
主に欧州の建築用ガラス事業で経済減速の影響を受け販売価格が低下しました。

「原燃材料コスト」は、欧州を中心に原燃材料価格が低下し28億円のプラスでした。

「その他」は、63億円のマイナスとなりました。
世界的なインフレ傾向を受け、主に人件費などのコストが上昇し、
コスト削減効果を上回りました。
また、経済の減速に伴い販売数量が減少した影響を受け、欧州建築用ガラス事業で
資産稼働率が低下しました。

エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：前年度以降安定的に推移
日本の重油価格：引き続き高値圏で推移



2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

7

続きまして、7ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は前年度から継続して安定的に推移しました。
日本における重油価格は引き続き高値圏で推移しました。

連結貸借対照表



自己資本比率は13.9%と前期末比で1.6pt改善。

有利子負債は運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加

(億円)	2024年 3月末	2024年 6月末	増減	
資産合計	10,076	10,585	509	
非流動資産	6,863	7,288	426	主に為替影響による有形固定資産の増加
流動資産	3,213	3,297	84	
負債合計	8,537	8,765	228	
流動負債	3,699	3,617	△ 82	
非流動負債	4,839	5,149	310	主に有利子負債の増加
資本合計	1,538	1,820	281	
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,473	230	主に為替影響とアルゼンチンにおける超インフレの調整に伴う資産価値の増加により自己資本比率が改善、13%超
自己資本比率 (%)	12.3%	13.9%	+1.6pt	
有利子負債	5,065	5,418	354	主に運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより約350億円増加

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

8

8ページは連結貸借対照表になります。

2024年6月末時点の総資産は1兆585億円となり

2024年3月末時点から509億円増加しています。

非流動資産は、主に円安の影響を受け

有形固定資産が増加した結果、426億円の増となりました。

非流動負債は有利子負債が増加し310億円の増となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、主に円安と

アルゼンチンにおける超インフレの調整に伴う資産価値増加の影響により

230億円増の、1,473億円でした。

この結果、自己資本比率は前期末比で1.6ポイント上昇の13.9%となりました。

有利子負債は354億円増加し、5,418億円となりました。

これは主に、運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナス

によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは前年と同水準。

営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の季節的増加の抑制が営業減益の影響を軽減

(億円)	4-6月期		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 175	△ 194	△ 18
(うち、運転資本の増減)	△ 384	△ 292	92
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 141	△ 123	17
(うち、有形固定資産の取得)	△ 138	△ 118	20
フリー・キャッシュ・フロー	△ 316	△ 317	△ 1
財務活動によるキャッシュ・フロー	51	223	171
現金及び現金同等物の増減	△ 265	△ 94	171
現金及び現金同等物 期末残高	462	375	△ 87

運転資本の季節的な増加の抑制により営業減益の影響を軽減

前年と同水準

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

9

9ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、

当第1四半期の3か月間では、前年から18億円の減少でした。

営業利益は前年同期比で大きく減少しましたが、運転資本の季節的な増加を抑制することにより軽減することができました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、

前年同期比で17億円改善し123億円のマイナスでした。

以上により、当第1四半期のフリー・キャッシュ・フローは317億円のマイナスと前年と同水準となりました。

引き続き、営業利益の改善と運転資本の削減に努め、フリー・キャッシュ・フローの増加と有利子負債の削減に努めます。

セグメント情報



(億円)	2023年3月期 4-6月期			2024年3月期 4-6月期			2025年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	856	48%	89	958	46%	119	902	42%	33	△ 55	△ 86
欧州	382	21%		381	18%		345	16%		△ 36	
アジア	229	13%		268	13%		271	13%		2	
米州	245	14%		308	15%		287	13%		△ 22	
自動車用ガラス事業	816	46%	△ 7	1,009	49%	32	1,136	52%	25	127	△ 7
欧州	337	19%		425	20%		476	22%		51	
アジア	145	8%		179	9%		196	9%		17	
米州	334	19%		405	19%		464	21%		59	
高機能ガラス事業	99	6%	32	100	5%	21	124	6%	20	24	△ 1
欧州	21	1%		25	1%		28	1%		4	
アジア	75	4%		71	3%		91	4%		20	
米州	4	0%		4	0%		5	0%		1	
その他	8	0%	△ 31	13	1%	△ 27	2	0%	△ 31	△ 11	△ 4
合計	1,779	100%	83	2,080	100%	146	2,164	100%	48	85	△ 98

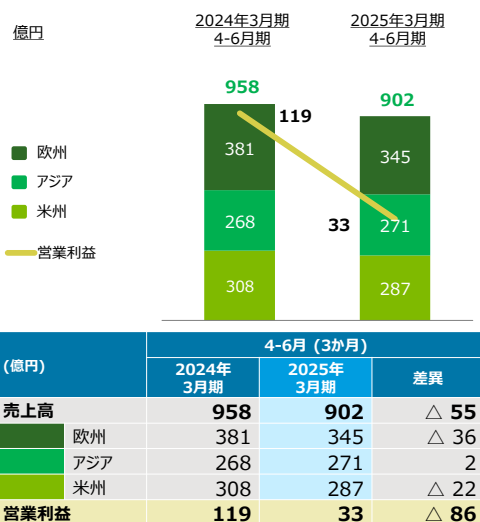
2024年8月 8 日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

10

10ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の第1四半期の売上高および営業利益を示しています。
各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (減収・減益)

欧州を中心に多くの地域で販売数量の減少と販売価格の下落の影響を受け、
前年同期比で減収減益



2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

欧州 (減収・減益)

- ・経済活動の減速に伴い販売数量・販売価格が低下
- ・市場環境の悪化による影響は投入コストの減少により一部軽減
- ・ドイツのフロート窯での定期修繕前の早期生産停止を実施

アジア (増収・減益)

- ・日本では販売数量が減少したが、販売価格は安定して推移
- ・東南アジアでは競合が継続
- ・太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。
マレーシアの新設備も収益に貢献

米州 (減収・減益)

- ・北米は域内の需要軟化が継続し、販売価格が低下、
販売数量も減少
- ・南米は需要が減少し、販売数量減少
- ・太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。
米国の既存フロートラインの転換は順調に進捗

11

11ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、欧州を中心に多くの地域で販売数量が減少し、
販売価格も下落したため、前年同期比で減収減益となりました。

欧州は、減収減益でした。

中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要が見込まれるものの、
経済活動の減速が続いたため、販売数量が減少し、販売価格も低下しました。
市場環境は悪化しましたが、原燃材料等の投入コストが前年同期比で
減少したため一部軽減しました。

また、2024年3月19日に公表した通り、ドイツのバイアハマーのフロート窯
1基において、来年に予定されている定期修繕を控え、前倒しで生産を停止しました。
これにより、低下した資産稼働率の改善によるコスト削減と、
欧州における建築ガラス市場の需給状況の改善を目指します。

アジアは、増収減益でした。

日本では、販売数量は減少しましたが、コスト上昇を吸収するための
価格転嫁もあり、販売価格は安定して推移しました。

東南アジアの国々では、競合が依然続き、販売価格が低下しています。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

前年12月に稼働を開始したマレーシアの太陽電池パネル用ガラスの新設備も収益に
貢献しています。

米州は、減収減益となりました。

北米は、域内市場の需要が軟化したため販売価格が低下し、販売数量も減少しました。

南米は、アルゼンチンでの需要が減少し、販売数量が減少しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調で、

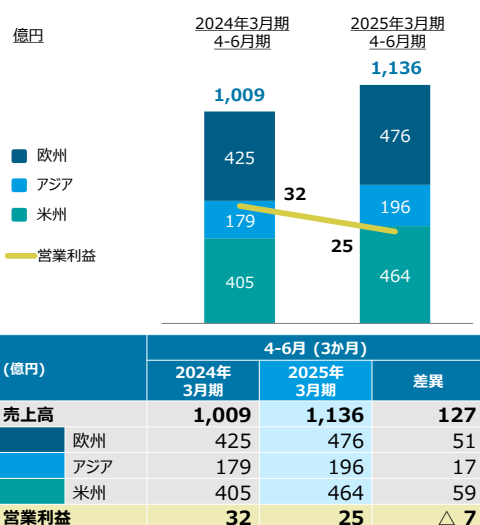
米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換は本年度末の稼働開始に向けて順調に進捗しています。

自動車用ガラス事業 (増収・減益)



価格転嫁の進展および円安による影響もあり増収。

営業利益は人件費等その他コスト上昇の影響を受け、前年同期比で減少



欧州 (増収・減益)

アジア (増収・増益)

米州 (増収・減益)

- 販売数量は、アジアと北米の一部取引先で生産停止の影響を受けたものの、全体としては回復傾向が継続
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格交渉がさらに進捗。
販売価格が改善したものの、人件費等その他コストを十分に吸収できず、営業利益が減少
- 北米では生産効率が低下したが、改善傾向
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

12

12ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、増収減益となりました。

増収は価格転嫁の進展による販売価格の上昇と、円安の影響によるものです。

減益は主に人件費等その他コストが上昇したためです。

アジアと北米の一部取引先で生産停止があり一時的にその影響を受けましたが、販売数量は事業全体としては回復傾向が継続しています。

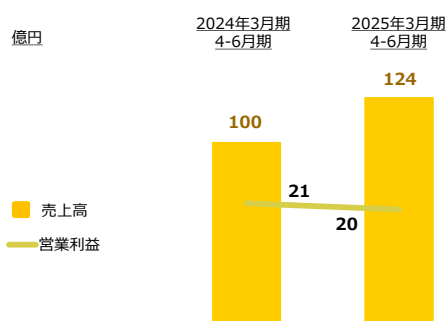
原材料および人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための価格交渉もさらに進展し、全地域で販売価格が改善しています。
これに伴いアジアでは増益となったものの、欧州、米州では人件費等その他コストの上昇を十分に吸収できなかったため、減益となりました。

北米ではいくつかの工場で一時的に生産効率が低下しましたが、現在改善傾向にあります。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (増収・減益)

市場回復の兆しに伴い多くの事業で需要が回復し増収。
営業利益はその他コスト増加により前年同期と同水準



- ファインガラスでは、一部製品で価格水準が改善
- プリンター用レンズは、需要が回復
- グラスコードは補修用市場での強い需要を背景に販売数量が増加
- メタシャイン® は化粧品向けで増加

(億円)	4-6月 (3か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	100	124	24
営業利益	21	20	△ 1

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

13

続きまして13ページです。

高機能ガラス事業は、市場回復の兆しに伴い多くの事業で需要が回復し増収でした。
営業利益はその他コストが上昇したため、前年同期と同水準でした。

ファインガラスは、一部製品で価格水準が改善しました。

プリンター用レンズは、販売数量が回復し、また販売価格も改善しました。

グラスコードは、補修用市場での強い需要を背景に
販売数量が増加しました。

メタシャイン®は化粧品向けで売上高が増加しました。

2. 2025年3月期 業績予想について

2025年3月期 業績予想



欧州経済減速の影響を受けた第1四半期実績を踏まえ、営業利益等の各利益予想を下方修正。
グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益改善に向けてあらゆる施策を実施

(億円)	2025年3月期 予想 (前回)		2025年3月期 予想 (今回)		増減		2024年3月期 通期実績 (参考)
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	
売上高	4,100	8,400	4,100	8,400	0	0	8,325
営業利益	160	370	120	300	△40	△70	359
個別開示項目 (純額)	-	-	-	-	-	-	1
個別開示項目後営業利益	160	370	120	300	△40	△70	360
金融費用 (純額)	△ 140	△ 290	△130	△280	10	10	△ 282
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	-	-	37
持分法による投資利益	25	50	25	50	0	0	51
持分法投資に関するその他の利益	-	-	-	-	-	-	10
税引前利益	45	130	15	70	△30	△60	176
当期利益	20	60	10	20	△10	△40	109
純利益*	10	40	0	0	△10	△40	106

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益

15

続いて2025年3月期の業績予想です。

表の左側から、2025年3月期の前回上期・通期予想、
今回上期・通期予想と増減、そして前年2024年3月期通期実績と並んでおります。

今般、上期・通期における営業利益、税引前利益、当期利益、純利益予想を
下方修正いたしました。

これは、経済減速の影響を大きく受けた第1四半期の実績を踏まえたためです。
当社は、ドイツのフロート窯を定期修繕に先立ち早期生産停止をするなど既に
施策を進めていますが、そのほかにもグループ全体でのより一層のコスト削減等、
利益の改善に向けてあらゆる施策を実施していきます。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2025年3月期 業績予想の前提

グループ	欧州の経済減速の影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益、純利益予想を下方修正 グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益改善に向けてあらゆる施策を実施 - 主要通貨について2024年3月期より円高の見込は不変 - エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、インフレによる人件費等その他コスト増加は継続 - コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続
建築用ガラス	欧州の経済減速は当面続くが、太陽電池パネル用ガラスで好調が継続 - 欧州：景気減速による販売数量減少・販売価格低下と、コスト増加の影響が続く - アジア：日本では販売価格が安定して推移、その他の東南アジア地域での競合が続く見込み - 北米：域内の需要軟化が継続し、販売数量が減少。米国の経済動向に注視 - 南米：アルゼンチンの需要は若干軟化が見込まれるが、現地通貨ベースでは堅調 - 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアの新設備が通年で収益に貢献
自動車用ガラス	人件費等コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続 - 自動車需要を背景に販売数量の回復は続くが、ペースは鈍化 - 自動車メーカーと、投入コスト増加を軽減するための価格改善交渉を継続 - 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す
高機能ガラス	市場回復の兆し、コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収 - ファインガラスは、IT市場が回復の兆し - プリンター用レンズは、需要回復の兆しがあるが、今後の状況を注視 - グラスコードは、自動車用で販売数量が徐々に回復

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

16

スライド16に移ります。

先ほどご説明しました通り、経済の減速影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益、純利益予想を下方修正しています。

グループ全体の前提としては、

主要通貨については、2024年3月期と比較し円高という見立てに変更はございません。

エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加は継続すると見ています。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、

欧州においては、経済減速による販売数量の減少と

販売価格低下および人件費等その他のコスト増加の影響を受ける見込みであり、

アジアでは、日本では販売価格が安定して推移します。

一方でその他の東南アジア地域では引き続き競合が続くと見ています。

北米では、域内市場の需要は軟化が続き、販売数量も減少する見込みです。

今後の米国の経済動向に注視が必要です。

南米ではアルゼンチンでの需要は若干の軟化が見込まれますが、

業績は現地通貨ベースでは堅調に推移することが想定されます。

太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続し

2023年12月に稼働を開始したマレーシアの新設備も通年で収益に貢献します。

自動車用ガラス事業では、
人件費等コスト増加の影響が予想されますが、販売価格の改善交渉を継続いたします。
販売数量はペースは鈍化するものの、自動車需要を背景に回復が続きます。
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、
さらなる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、
市場の回復の兆しが見えており、販売数量および販売価格の改善により
コスト増加の影響を吸収していくことを目指します。

グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益の改善に向けてあらゆる施策を実施し、
通期業績予想の達成に注力してまいります。

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における 財務目標の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の主な進捗



欧州経済の影響を受け、逆風の中でのスタート。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期（4-6月期） 実績
収益性（P/L）	営業利益	640億円		48億円：2024年3月期第4四半期（38億円）からは改善したが、業績予想に対しては逆風の中でのスタート
	営業利益率（ROS）	7%	10%以上	2.2%：2024年3月期第4四半期（1.7%）から改善
▼				
キャッシュ創出（C/F）	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△317億円：前年同期と同水準。 営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の季節的増加の抑制が営業減益の影響を軽減
▼				
財務基盤の安定化（B/S）	有利子負債	4,420億円		5,418億円：運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより増加
	自己資本比率	15%		13.9%：前期末から1.6pt改善

2024年8月8日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

18

18ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の主な進捗についてご説明します。

2024年5月に2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする中期経営計画である「2030 Vision : Shift the Phase」を発表しました。本中計期間においては、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を改善することに徹底して注力することを目標にしています。そのため、収益性（P/L）、キャッシュ創出（C/F）、財務基盤の安定化（B/S）について2027年3月期において達成すべき財務目標を5つ掲げております。

まず、営業利益については、当第1四半期では欧州における経済減速の影響を大きく受け、業績予想に対して逆風の中でのスタートとなりましたが、2024年3月期第4四半期の38億円と比較すると、10億円増加しています。営業利益率については2.2%ではありますが、2024年3月期第4四半期の1.7%から改善しています。

フリー・キャッシュ・フローについては、営業利益が前年同期から大きく減益となる一方で、運転資本の季節的な増加を抑制し、前年同期と同水準の317億円のマイナスでした。

有利子負債は5,418億円と前期末の5,065億円から354億円増加しました。これは主に運転資本の季節的な増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスによるものです。自己資本比率は13.9%で、為替影響とアルゼンチンにおける超インフレの調整に伴う資産価値の増加により前期末比から1.6ポイント改善しています。

今後も引き続き、有利子負債の削減および自己資本比率の改善に向けて、収益性を改善し、キャッシュ創出力を強化していきます。

4. まとめ

まとめ



1. 2025年3月期 第1四半期決算概要

- 増収だが、欧州における経済減速の影響を大きく受けた建築用ガラス事業を中心に減益
- 経済減速を受け販売価格が欧州建築用ガラス事業で低下。
人件費等の増加によりその他コスト増加も継続
- 自己資本比率は13.9%と前期末比で1.6pt改善
- 有利子負債は運転資本の季節的な変動等に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加
- フリー・キャッシュ・フローは前年同期と同水準。運転資本の季節的増加を抑制

2. 2025年3月期 業績予想

- 欧州の経済減速の影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益、純利益予想を下方修正
- 主要通貨について2024年3月期より円高の見込は不変
- エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ傾向を反映し人件費等
その他コストの増加は継続を見込む
- グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益の改善に向けてあらゆる施策を実施

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況

- 欧州経済の影響を受け、営業利益は逆風のスタート。
引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- ガラス価格の推移

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
売上高	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164
営業利益 (△損失)	83	62	97	107	146	115	61	38	48
営業利益率	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%
個別開示項目 (その他)	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11	6	△ 8	2
個別開示項目後営業利益 (△損失)	106	△ 411	107	94	138	125	67	29	49
金融費用 (純額)	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△損失)	-	-	-	-	37	-	-	-	-
持分法による投資利益	22	10	21	20	10	12	15	14	11
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0	△ 1	△ 0	-
税引前利益 (△損失)	88	△ 434	77	49	133	61	17	△ 35	0
当期利益 (△損失)	33	△ 403	22	38	75	30	36	△ 32	27
純利益 (△損失)*	24	△ 412	17	34	70	27	37	△ 29	24
EBITDA	180	161	202	207	253	226	170	168	175

2024年8月 8 日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

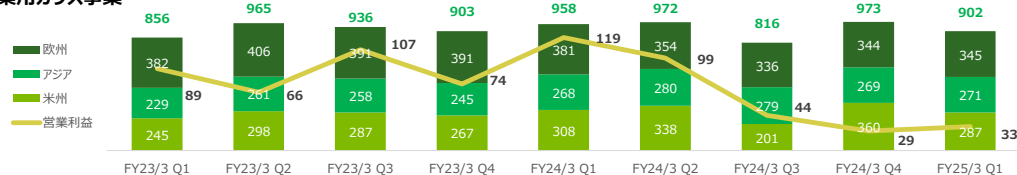
23

事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

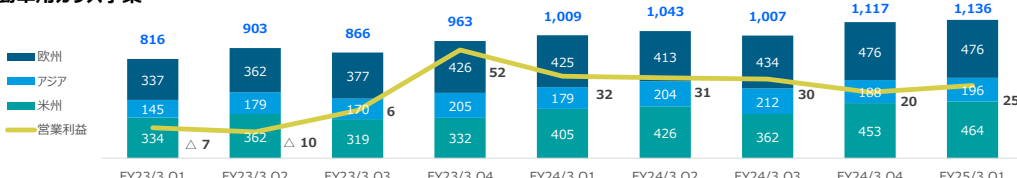


単位：億円

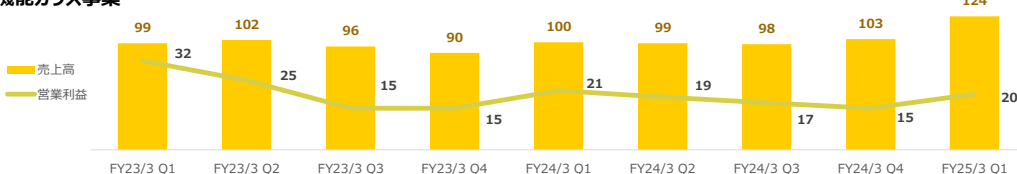
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高機能ガラス事業



2024年8月 8 日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

24

セグメント情報



(億円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期
売上高: 建築用ガラス	856	965	936	903	3,659	958	972	816	973	3,718	902
欧州	382	406	391	391	1,571	381	354	336	344	1,415	345
アジア	229	261	258	245	992	268	280	279	269	1,096	271
米州	245	298	287	267	1,096	308	338	201	360	1,206	287
営業利益	89	66	107	74	336	119	99	44	29	291	33
売上高: 自動車用ガラス	816	903	866	963	3,547	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136
欧州	337	362	377	426	1,502	425	413	434	476	1,747	476
アジア	145	179	170	205	699	179	204	212	188	783	196
米州	334	362	319	332	1,347	405	426	362	453	1,645	464
営業利益	△ 7	△ 10	6	52	41	32	31	30	20	113	25
売上高: 高機能ガラス	99	102	96	90	388	100	99	98	103	399	124
欧州	21	25	22	27	95	25	26	26	30	106	28
アジア	75	73	70	58	276	71	69	67	69	275	91
米州	4	5	4	4	16	4	5	5	4	18	5
営業利益	32	25	15	15	87	21	19	17	15	71	20
売上高: その他	8	7	9	18	41	13	8	5	6	33	2
営業利益	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31
売上高: 合計	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164
営業利益	83	62	97	107	348	146	115	61	38	359	48

2024年8月 8 日 | 2025年3月期 第1四半期決算報告

25

地域別売上高および営業利益



(億円)	2024年3月期 4-6月期			2025年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	831	40%	25	849	39%	△ 52	18	△ 77
アジア	518	25%	82	557	26%	74	39	△ 7
米州	718	35%	66	756	35%	56	38	△ 10
その他 *	13	1%	△ 27	2	0%	△ 31	△ 11	△ 4
合計	2,080	100%	146	2,164	100%	48	85	△ 98

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目



(億円)	2024年3月期 4-6月期	2025年3月期 4-6月期
固定資産売却による利益	-	3
係争案件の解決に係る収益 (純額)	△0	△0
リストラチャリング費用	△0	△0
非流動資産の減損損失	△5	△1
棚卸資産の評価減	△2	-
その他	0	0
個別開示項目 純額	△8	2

為替レート・為替感応度



期中平均レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	163	163	164	163	172	177	179	182	197
ユーロ	138	139	140	141	150	153	154	157	168
米ドル	129	134	137	135	138	140	143	144	156
ブラジル・レアル	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用								

2025年 3月期
期初見通し
171
150
140
28.9

期末レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	165	161	160	165	183	182	181	191	204
ユーロ	142	141	140	145	158	157	157	163	173
米ドル	136	145	132	133	145	148	143	152	162
ブラジル・レアル	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3
アルゼンチン・ペソ	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円安になった場合の影響額

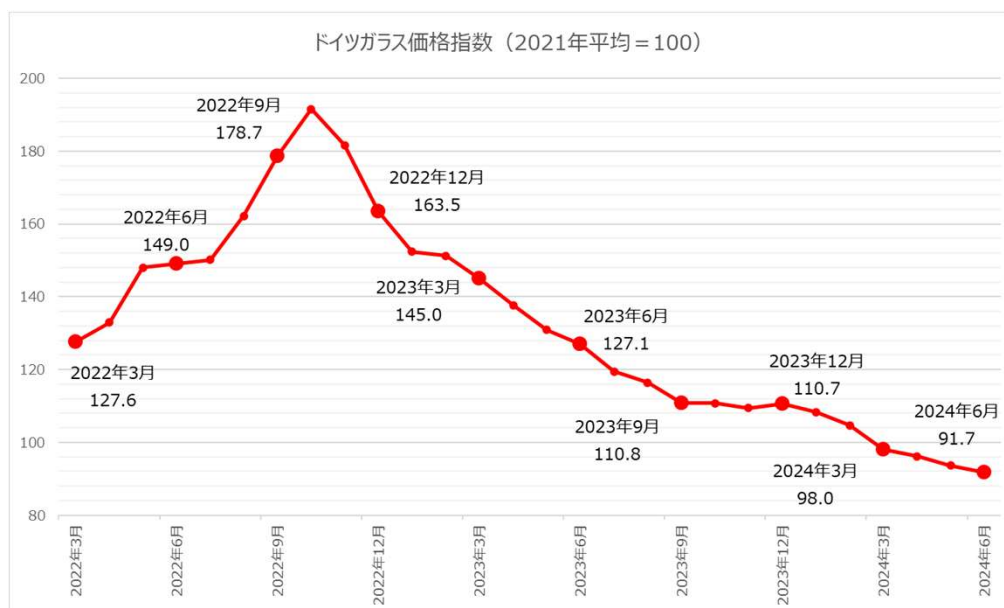
	2024年 3月期
資本	38.0億円の増加
当期利益	1.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2024年3月期 4-6月期	2025年3月期 4-6月期	2025年3月期 見通し
減価償却費	108	127	490
資本的支出	110	80	630
通常投資	80	50	330
戦略投資	30	30	300
研究開発費	22	26	114
建築用ガラス事業	8	9	
自動車用ガラス事業	7	8	
高機能ガラス事業	2	2	
その他	5	7	

ガラス価格の推移



2024年8月 8 日

2025年3月期 第1四半期決算報告

30

NSG

GROUP